

健康福祉常任委員会 所管事務報告
資 料
令和3年11月19日

※報告日までは外部への
資料提供はご遠慮ください。

中央病院の経営状況について（令和3年度第2四半期）

中央病院 病院改革担当部 経営企画課

1. 概況

第2四半期における兵庫県の新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の感染者数の動向については、3回目の緊急事態宣言（4月25日～6月20日）の発出等により、6月下旬には小康状態となりましたが、7月下旬より再度増加傾向に転じたことから4回目の緊急事態宣言（8月20日～9月30日）が発出され、8月下旬から9月上旬には新規感染者数が1日当たり1,000人を超え、医療提供体制が逼迫するなど非常に厳しい状況となりました。

中央病院においては、5月中旬以降、一般病棟（新型コロナ患者専用病床のある病棟以外の病棟。以下同じ。）の病床数を縮小し、新型コロナ患者の受入病床として20床を確保し対応にあたりましたが、7月下旬以降、同病床の稼働率は100%を超える日が続いたことなどから、9月10日からさらに5床増やし、受入対応にあたりました。

令和3年度は、前年度に引き続き一般病棟(144床)の病床稼働率80%の達成を暫定目標に掲げていますが、こうした状況から第2四半期も診療所訪問など稼働率向上に向けた取組は十分に実施できませんでした。その結果、第2四半期の一般病棟の病床稼働率は66.7%（前年同期比▲4.1ポイント）に留まり目標値には届きませんでした。一方で、医業収益は新型コロナ入院患者数の増加に加えて、診療単価の増加等により約11億7,600万円（前年同期比+9,500万円）となり、純損益についてもプラス約2億5,900万円（前年同期比+4億2,100万円）となり、いずれも目標値を上回りました。

2. 第2四半期における主な取組

（1）新型コロナ対応に向けた新たな取組

- ・新型コロナ患者の受入病床の増床（9/10～、20床→25床）
- ・重点医療機関体制整備事業補助金（空床補償）の申請・受領
第1四半期分（4-6月）354,290千円は入金済。第2四半期分（7-9月）441,762千円は申請中

（2）病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①各指遵件数等の算定件数の向上を目指すワーキングチームの設置(9月)

薬剤管理指導や退院時リハビリ指導など各指遵件数等の向上を図り、患者サービス及び収益の向上を図るため、薬剤部、リハビリテーション科及び栄養管理科の職員によるワーキングチームを設置しました。

②後方連携病院への訪問(7月～)

6月から一般病棟の病床数を107床に縮小しており、効率的な病棟運用を進めるために、自宅への退院が困難な患者の受入先となる後方連携病院に訪問し連携強化に努めました。

③市民健康講座ウェブ配信の実施(10月)

上記講座については、新型コロナの感染拡大を受けて開催を見送っていたが、代替措置としてホームページからのウェブ配信を検討し、10月より開始しました。今後は会場における開催が可能となった場合も継続して実施していきます。

④電話再診の継続 第2四半期：48件（前年同期：93件）

3. 収益的収支状況（7月～9月）

（単位：千円、％）

項目	R2	R3 (A)	前年度との比較		目標値 (R3当初予算) (B)	達成率 (A)/(B)	経営改革 プラン値 (参考)
			増減額	増減率			
医業収益	1,081,826	1,176,375	+ 94,549	+ 8.7%	1,129,482	104.2%	1,269,490
入院収益	586,382	666,650	+ 80,268	+ 13.7%	634,064	105.1%	703,737
外来収益	363,951	392,113	+ 28,162	+ 7.7%	365,618	107.2%	422,589
その他医業収益	131,493	117,612	▲ 13,881	▲ 10.6%	129,801	90.6%	143,164
医業費用	1,369,200	1,392,142	+ 22,942	+ 1.7%	1,473,768	94.5%	1,495,921
給与費	624,355	632,330	+ 7,975	+ 1.3%	696,033	90.8%	694,489
材料費	291,339	297,662	+ 6,323	+ 2.2%	304,391	97.8%	320,265
経費	340,838	340,915	+ 77	+ 0.0%	343,781	99.2%	357,235
減価償却費	107,531	118,223	+ 10,692	+ 9.9%	118,223	100.0%	113,419
その他医業費用	5,137	3,012	▲ 2,125	▲ 41.4%	11,340	26.6%	10,513
医業収支	▲ 287,374	▲ 215,767	+ 71,607	—	▲ 344,286	—	▲ 226,431
医業外収益	159,123	509,157	+ 350,034	+ 220.0%	165,607	307.4%	166,680
医業外費用	34,412	34,344	▲ 68	▲ 0.2%	33,777	101.7%	34,259
経常収支	▲ 162,663	+ 259,046	+ 421,709	—	▲ 212,456	—	▲ 94,010
特別利益	45	209	+ 164	+ 364.4%	1,053	19.8%	1,072
特別損失	18	1	▲ 17	▲ 94.4%	3,725	0.0%	3,381
純損益	▲ 162,636	+ 259,254	+ 421,890	—	▲ 215,128	—	▲ 96,319

※ 現金支出を伴わない費用（減価償却費など）や一般会計繰入金など12等分で算出している項目がある。

※ 「目標値(R3当初予算)」はR3当初予算の年間の値を、「経営改革プラン値」は経営改革プランに掲げている年間の目標値をそれぞれ期間に応じた経過日数で除して算出したもの(以下同じ)。

◆ 7月～9月の収益的収支の主な増減項目と内訳（前年度との比較）

医業収益	
入院収益	+ 80,268 千円 ⇒うち、内科+89,297 千円、小児科+8,142 千円、泌尿器科+5,972 千円、外科▲23,925 千円、整形外科▲9,436 千円 【5.分析と課題(1)】へ
外来収益	+ 28,162 千円 ⇒うち、内科+13,516 千円、泌尿器科+5,366 千円、麻酔科+2,704 千円 歯科口腔外科+2,869 千円、眼科▲1,673 千円 【5.分析と課題(2)】へ
その他医業収益	▲13,881 千円 ⇒うち、臨床試験研究経費▲12,296 千円、室料差額収益▲3,803 千円
医業費用	
給与費	+ 7,975 千円 ⇒うち、特殊勤務手当+4,509 千円、時間外勤務手当+3,219 千円、
材料費	+ 6,323 千円 ⇒うち、薬品費+7,385 千円
経費	+ 77 千円 ⇒うち、委託料+4,935 千円、光熱水費▲2,804 千円
減価償却費	+ 10,692 千円 ⇒うち、医療情報システム（R2 年度整備分）の減価償却費の増加による
医業外収益	+ 350,034 千円 ⇒うち、重点医療機関体制整備事業補助金（空床補償）の増加による 354,290 千円（R3 年 4～6 月分）

(参考) 収益的収支状況 (4月～9月)

(単位: 千円、%)

項目	R2	R3 (C)	増減額	目標値 (R3当初予算) (D)	達成率 (C)/(D)	経営改革 プラン値 (参考)
医業収益	2,021,619	2,332,607	+ 310,988	2,246,688	103.8%	2,525,182
入院収益	1,102,376	1,324,974	+ 222,598	1,261,236	105.1%	1,399,825
外来収益	673,150	764,713	+ 91,563	727,261	105.1%	840,585
その他医業収益	246,093	242,920	▲ 3,173	258,191	94.1%	284,773
医業費用	2,770,633	2,836,056	+ 65,423	3,010,279	94.2%	3,054,118
給与費	1,355,227	1,360,930	+ 5,703	1,461,977	93.1%	1,458,733
材料費	546,205	578,473	+ 32,268	605,473	95.5%	637,049
経費	645,701	651,201	+ 5,500	683,825	95.2%	710,586
減価償却費	215,062	236,445	+ 21,383	236,446	100.0%	226,838
その他医業費用	8,438	9,007	+ 569	22,558	39.9%	20,912
医業収支	▲ 749,014	▲ 503,449	+ 245,565	▲ 763,591	—	▲ 528,936
医業外収益	318,114	663,801	+ 345,687	329,414	201.5%	331,548
医業外費用	66,516	66,733	+ 217	67,186	99.3%	68,146
経常収支	▲ 497,416	+ 93,619	+ 591,035	▲ 501,363	—	▲ 265,534
特別利益	398	3,556	+ 3,158	2,095	169.7%	2,133
特別損失	4,194	23	▲ 4,171	7,410	0.3%	6,725
純損益	▲ 501,212	+ 97,152	+ 598,364	▲ 506,678	—	▲ 270,126

◆ 4月～9月の収益的収支の主な増減項目と内訳 (前年度との比較)

医業収益	
入院収益	+222,598 千円 ⇒うち、内科+166,760 千円、泌尿器科+23,850 千円、眼科+13,863 千円、小児科+13,845 千円
外来収益	+91,563 千円 ⇒うち、内科+32,570 千円、泌尿器科+14,390 千円、外科+5,188 千円、歯科口腔外科+8,168 千円、小児科+7,278 千円、
その他医業収益	▲3,173 千円 ⇒うち、臨床試験研究経費▲11,106 千円、室料差額収益▲7,054 千円、
医業費用	公衆衛生活動収益+17,598 千円
給与費	+5,703 千円 ⇒うち、特殊勤務手当+6,788 千円、時間外勤務手当+6,461 千円、報酬▲8,490 千円
材料費	+32,268 千円 ⇒うち、診療材料費+17,570 千円、薬品費+15,728 千円
経費	+5,500 千円 ⇒うち、委託料+7,076 千円、修繕料+5,471 千円、光熱水費▲5,653 千円
減価償却費	+21,383 千円 ⇒うち、医療情報システム (R2 年度整備分) の減価償却費の増加による
医業外収益	+345,687 千円 ⇒うち、重点医療機関体制整備事業補助金 (空床補償) の増加による 354,290 千円 (R3 年 4～6 月分)

4. 業務実績（7月～9月）

項目	R2	R3 (A)	前年度との比較		目標値 (R3当初予算等) (B)	達成率 (A)/(B)	経営改革 プラン値 (参考)	
			増減値	増減率				
入院 指標	入院患者数 (人)	10,060	10,466	+ 406	+ 4.0%	11,132	94.0%	13,156
	1日平均患者数 (人)	109.3	113.8	+ 4.5	+ 4.1%	121	94.0%	143
	病床稼働率(193床) (%)	56.7	58.9	+ 2.2	+ 3.9%	-	-	74
	一般病棟(144床) (%)	70.8	66.7	▲ 4.1	▲ 5.8%	80	83.4%	74
	新入院患者数 (人)	967	1,013	+ 46	+ 4.8%	1,008	100.5%	1,134
	平均在院日数 (日)	10.4	10.2	▲ 0.2	▲ 1.9%	11.0	92.7%	12.0
	診療単価 (円)	58,288	63,697	+ 5,409	+ 9.3%	56,900	111.9%	53,500
外来 指標	外来患者数 (人)	22,312	22,984	+ 672	+ 3.0%	22,477	102.3%	26,413
	1日平均患者数 (人)	365.8	376.8	+ 11.0	+ 3.0%	370	101.8%	433
	診療単価 (円)	16,312	17,060	+ 748	+ 4.6%	16,200	105.3%	16,000
その 他 指標	救急搬送受入件数 (件)	276	272	▲ 4	▲ 1.4%	320	85.0%	
	救急搬送応需率 (%)	78.6	69.0	▲ 9.6	▲ 12.2%	83.0	83.1%	
	紹介率 (%)	67.7	71.1	+ 3.4	+ 5.0%	72.0	98.8%	
	紹介患者数 (人)	2,329	2,343	+ 14	+ 0.6%	2,747	85.3%	
	逆紹介率 (%)	77.9	77.9	± 0	± 0	83.0	93.9%	
	逆紹介患者数 (人)	2,096	2,092	▲ 4	▲ 0.2%	2,647	79.0%	

※「目標値(R3当初予算等)」のうち、入院及び外来指標はR3当初予算の値を、その他指標及び「経営改革プラン値」は経営改革プランに掲げている年間の目標値をそれぞれ期間に応じた経過日数で除して算出したもの。

◆ 7月～9月の業務実績の主な増減項目と内訳（前年度との比較）

入院患者数	+406人	⇒うち、内科+1,251人、小児科+78人、麻酔科+72人、泌尿器科+62人、 外科▲565人、整形外科▲338、皮膚科▲139人【5.分析と課題(1)】へ
一般病棟の病床稼働率	▲4.1 ㊦	⇒一般病棟の新入院患者数の減少（892人(R2)→859人(R3) ▲33人）と 在院日数の短縮（10.4日(R2)→10.1日(R3) ▲0.3日）
新入院患者数	+46人	⇒うち、内科+53人、小児科+15人、眼科▲13人、外科▲10人
平均在院日数	▲0.2日	⇒地域包括ケア病棟を新型コロナ患者専用病棟として運用したことによる影響
診療単価	+5,409円	⇒新型コロナ患者専用病棟を急性期一般入院料の算定としたことによる影響
外来患者数	+672人	⇒うち、内科+258人、歯科口腔外科+243人、整形外科+209人、 麻酔科+142人、眼科▲212人、皮膚科▲157人【5.分析と課題(2)】へ
診療単価	+748円	⇒診療単価が比較的安価な患者の減少による影響
救急搬送受入件数	▲4件	⇒救急搬送応需率の減少による影響
救急搬送応需率	▲9.6 ㊦	⇒満床による不応需件数の増加による影響
紹介患者数	+14人	⇒うち、内科+38人、歯科口腔外科+35人、泌尿器科+33人、小児科+23人、 皮膚科+10人、外科▲68人、整形外科▲58人
逆紹介患者数	▲4人	⇒うち、皮膚科+34人、泌尿器科+33人、歯科口腔外科+29人、 小児科▲31人、整形外科▲26人、外科▲20人、眼科▲15人

(参考) 業務実績 (4月～9月)

項目		R2	R3 (C)	増減額	目標値 (D)	達成率 (C)/(D)	経営改革 プラン値 (参考)
入院 指標	入院患者数 (人)	19,428	21,339	+ 1,911	22,143	96.4%	26,169
	1日平均患者数 (人)	106.2	116.6	+ 10.4	121	96.4%	143
	病床稼働率(193床) (%)	55.0	60.4	+ 5.4	81	74.6%	74
	一般病棟(144床) (%)	68.3	70.5	+ 2.2	80	88.1%	74
	新入院患者数 (人)	1,739	2,038	+ 299	2,005	101.6%	2,256
	平均在院日数 (日)	11.2	10.4	▲ 0.8	11.0	94.5%	12.0
	診療単価 (円)	56,742	62,092	+ 5,350	56,900	109.1%	53,500
外来 指標	外来患者数 (人)	41,579	45,722	+ 4,143	44,954	101.7%	52,826
	1日平均患者数 (人)	340.8	374.8	+ 34.0	370	101.3%	433
	診療単価 (円)	16,190	16,725	+ 535	16,200	103.2%	16,000
その 他 指標	救急搬送受入件数 (件)	492	536	+ 44	637	84.2%	
	救急搬送応需率 (%)	76.4	66.7	▲ 9.7	83.0	80.4%	
	紹介率 (%)	69.2	71.7	+ 2.5	72.0	99.6%	
	紹介患者数 (人)	4,042	4,665	+ 623	5,465	85.4%	
	逆紹介率 (%)	81.1	76.9	▲ 4.2	83.0	92.7%	
	逆紹介患者数 (人)	3,704	4,023	+ 319	5,264	76.4%	

◆ 4月～9月の業務実績の主な増減項目と内訳 (前年度との比較)

入院患者数	+1,911人	⇒うち、内科+2,326人、泌尿器科+221人、小児科+221人、眼科+106人、 外科▲479人、整形外科▲415人
一般病棟の病床稼働率	+2.2 ㊦	⇒一般病棟の新入院患者数の増加 (1,622人(R2)→1,785人(R3) +163人)
新入院患者数	+299人	⇒うち、内科+166人、眼科+57人、小児科+35人、外科+14人
平均在院日数	▲0.8日	⇒地域包括ケア病棟を新型コロナ患者専用病棟として運用したことによる影響
診療単価	+5,350円	⇒新型コロナ患者専用病棟を急性期一般入院料の算定としたことによる影響
外来患者数	+4,143人	⇒うち、内科+1,187人、歯科口腔外科+712人、整形外科+509人、 小児科+472人、泌尿器科+455人
診療単価	+535円	⇒診療単価が比較的安価な患者の減少による影響
救急搬送受入件数	+44件	⇒要請件数の増加 (644件(R2)→803件(R3) +159件)
救急搬送応需率	▲9.7 ㊦	⇒満床による不応需件数の増加による影響
紹介患者数	+623人	⇒うち、内科+171人、歯科口腔外科+109人、泌尿器科+92人、 皮膚科+69人、小児科+62人
逆紹介患者数	+319人	⇒うち、内科+120人、歯科口腔外科+68人、泌尿器科+62人、皮膚科+27人

5. 分析と課題

(1) 入院収益について

①病院全体の状況

令和3年度においても、暫定的な目標として「一般病棟(144床)での病床稼働率80%の達成」を掲げ、収益向上に取り組んでいます。なお、5月17日から段階的に新型コロナ患者の受入病床を増床するため一般病棟の病床数を縮小し、6月から一般病棟の病床数は107床となっています。

第2四半期における一般病棟(144床)の病床稼働率は、新型コロナの感染拡大の影響等により患者数が減少し、前期に比べて7.6ポイントの減少、前年度に比べて4.1ポイント減少の66.7%となりました。一般病棟の病床数を107床として算出した稼働率では89.8%となりました。

入院収益については、新型コロナ入院患者数の増加に加えて、診療単価の増加により前期に比べて約800万円増加、前年度に比べて約8,000万円増加の約6億6,700万円となりました。診療単価については、前期及び前年度に比べてともに増加しており、病棟別で見ると、一般病棟については在院日数が短縮したことや、コロナ患者専用病棟については入院料が従前の地域包括ケア病棟入院料の算定から5月より地域一般入院料の算定に、6月より急性期一般入院料の算定に変更したことが主な要因となっています。

◆入院関連指標の状況

項目	R3年度			R2年度	
	第1四半期	第2四半期	前期増減	第2四半期	前年同期増減
入院患者数 (人)	10,873	10,466	▲ 407	10,060	+ 406
一般病棟 (人)	9,735	8,842	▲ 893	9,374	▲ 532
コロナ患者専用病棟 [※] (人)	1,138	1,624	+ 486	686	+ 938
うち、コロナ患者 (人)	1,138	1,624	+ 486	311	+ 1,313
病床稼働率(193床) (%)	61.9	58.9	▲ 3.0	56.7	+ 2.2
一般病棟(144床) (%)	74.3	66.7	▲ 7.6	70.8	▲ 4.1
一般病棟(107床) ^{※1} (%)	81.2	89.8	8.6	-	-
コロナ患者専用病棟 ^{※2, 3} (%)	73.7	83.5	+ 9.8	30.5	+ 53.0
入院収益 (千円)	658,323	666,650	+ 8,327	586,382	+ 80,269
一般病棟 (千円)	593,965	546,771	▲ 47,193	558,016	▲ 11,245
コロナ患者専用病棟 (千円)	64,359	119,879	+ 55,520	28,365	+ 91,514
入院診療単価 (円)	60,547	63,697	+ 3,150	58,288	+ 5,408
一般病棟 (円)	61,013	61,838	+ 825	59,528	+ 2,310
コロナ患者専用病棟 (円)	56,554	73,817	+ 17,263	41,349	+ 32,468

※1 R3年度 第1四半期については、4月、5月を144床、6月を107床として算出しています。

※2 コロナ患者専用病棟について、R2年度は7月まで地域包括ケア病棟として運用していました。

※3 コロナ患者専用病棟の病床稼働率について、R2年度は49床(8月以降、最大12床)、

R3年度は最大20床(5月17日～9月9日)又は最大25床(9月10日以降)を分母として算出しています。

②診療科別の状況

第2四半期においては、前年度に比べて入院収益が増加した診療科のうち、特に内科、小児科の増加が顕著でした。

内科については、新型コロナ患者への対応にあたっていることから、他科に比べて患者数や収益が顕著に増加しました。新型コロナ患者以外では、憩室性疾患や胆嚢炎などの消化器系の疾患や、リウマチ膠原病領域の自己免疫疾患の症例数が増加しました。費用では前年度に比べて、給与費が正規医師数の増やコロナ病棟への集約配置による看護師給与配賦で増加し、経費等では患者数増に伴う給食委託料の増や放射線治療収益の増加等による減価償却費の増などで費用が増加し、材料費では循環器内科での手術減などにより診療材料費は減少しました。

小児科については、新型コロナウイルス感染症以外の呼吸器系の感染症の流行が見られ、急性気管支炎の症例数が増加しました。費用については、前年度に比べ、患者数増に伴う薬品費の増のほか、給与費が4月の医師の異動（常勤1名増、非常勤1名減）の影響等で増加しました。

一方で、前年度に比べて入院収益が減少した診療科のうち、特に外科、整形外科の減少が顕著でした。

外科については、鼠径ヘルニアや直腸肛門の悪性腫瘍などの消化器系の疾患の症例数が、減少しています。特に鼠径ヘルニアでは前年度は第1四半期の不急の手術の延期等の反動で増加していたことも影響しています。費用では前年度に比べ、給与費が患者数減による看護師給与配賦分の減少、経費等では患者数減に伴う給食委託料の減や放射線治療収益減による減価償却費配賦分の減などで費用が減少しました。

整形外科については、地域包括ケア病棟をコロナ専用病棟として運用したことから在院日数が短くなり（26.7日(R2)→19日(R3))、入院患者数が減少したことが主な要因であると考えています。なお、前期との比較では大腿骨の骨折観血的手術などの入院手術件数の増加が収益増の要因となっています。費用では前年度に比べ、手術数増により診療材料費の増加があったが、給与費が患者数減少による看護師給与配賦分の減などで減少し、その他の費用も患者数の減に伴いすべて減少しました。

③課題

- ・8月から9月にかけて、一般病棟の病床稼働率が低下していることから、新入院患者の獲得などに向けた取組を一層推進する必要があります。
- ・第6波に備え、一般病床を縮小しつつ、コロナ病床を確保していますが、一般病床への稼働率への影響も大きく、病床運用の見極めが課題となっています。

◆入院収益の増減が著しい診療科

※詳細は添付の診療科別収支（1）入院を参照

項目		R3年度			R2年度	
		第1四半期	第2四半期	前期増減	第2四半期	前年同期増減
内科	入院患者数 (人)	6,863	6,445	▲ 418	5,194	+ 1,251
	入院手術件数 (件)	101	117	+ 16	140	▲ 23
	入院収益 (千円)	373,453	379,594	+ 6,141	290,297	+ 89,297
	入院費用 (千円)	337,256	344,944	+ 7,688	318,056	+ 26,888
	給与費 (千円)	241,449	243,138	+ 1,689	217,824	+ 25,314
	材料費 (千円)	57,817	62,550	+ 4,733	67,239	▲ 4,689
	経費等 (千円)	37,990	39,256	+ 1,265	32,992	+ 6,263
収支 (千円)	+ 36,197	+ 34,650	▲ 1,547	▲ 27,759	+ 62,409	
外科	入院患者数 (人)	1,428	1,285	▲ 143	1,850	▲ 565
	入院手術件数 (件)	104	94	▲ 10	101	▲ 7
	入院収益 (千円)	121,082	102,803	▲ 18,279	126,728	▲ 23,925
	入院費用 (千円)	112,512	105,738	▲ 6,774	128,547	▲ 22,809
	給与費 (千円)	68,214	64,912	▲ 3,302	80,036	▲ 15,124
	材料費 (千円)	31,394	30,021	▲ 1,373	32,758	▲ 2,737
	経費等 (千円)	12,904	10,805	▲ 2,099	15,753	▲ 4,948
収支 (千円)	+ 8,570	▲ 2,935	▲ 11,505	▲ 1,819	▲ 1,116	
整形外科	入院患者数 (人)	571	635	+ 64	973	▲ 338
	入院手術件数 (件)	27	37	+ 10	29	+ 8
	入院収益 (千円)	27,009	32,383	+ 5,374	41,819	▲ 9,436
	入院費用 (千円)	32,263	38,023	+ 5,759	49,165	▲ 11,142
	給与費 (千円)	23,554	27,947	+ 4,394	38,929	▲ 10,982
	材料費 (千円)	5,023	5,676	+ 653	5,027	+ 649
	経費等 (千円)	3,687	4,400	+ 713	5,209	▲ 810
収支 (千円)	▲ 5,255	▲ 5,640	▲ 386	▲ 7,346	+ 1,706	
小児科	入院患者数 (人)	255	285	+ 30	207	+ 78
	入院手術件数 (件)	0	0	± 0	0	± 0
	入院収益 (千円)	23,512	29,514	+ 6,002	21,373	+ 8,142
	入院費用 (千円)	24,004	28,993	+ 4,989	23,433	+ 5,559
	給与費 (千円)	13,232	14,696	+ 1,464	12,027	+ 2,668
	材料費 (千円)	9,937	13,406	+ 3,469	10,691	+ 2,715
	経費等 (千円)	835	891	+ 56	715	+ 176
収支 (千円)	▲ 492	+ 522	+ 1,013	▲ 2,061	+ 2,582	

※収益、費用等において端数の関係から合計や増減が合わない場合があります。

※材料費・・・薬品費、診療材料費

※経費等・・・応援医師等の報償費、医療機器の保守委託・減価償却費

※入院費用のうち、各診療科に配賦できなかった費用（建物の減価償却費や光熱水費等）が2割以上あり、それを加味した場合、収支がマイナスになることがあります。

(2) 外来収益について

①病院全体の状況

市民の受診意識の変化や診療所からの紹介患者数の増加などにより、外来患者数が増加したため、第2四半期の外来収益は、前期と比べると約2,000万円増加、前年度と比べると約2,800万円増加の約3億9,200万円となりました。

◆外来関連指標の状況

項目	R3年度			R2年度	
	第1四半期	第2四半期	前期増減	第2四半期	前年同期増減
外来収益 (千円)	372,600	392,113	+ 19,513	363,951	+ 28,162
外来診療単価 (円)	16,387	17,060	+ 674	16,312	+ 748
外来患者数 (人)	22,738	22,984	+ 246	22,312	+ 672
紹介患者数 (人)	2,322	2,343	+ 21	2,329	+ 14

②診療科別の状況

診療科別で前年度に比べると、眼科を除く診療科で収益が増加しました。特に内科、泌尿器科、歯科口腔外科の増収が顕著でした。

内科については、新たに標榜したりウマチ膠原病内科の影響や内視鏡の手術件数が増加したことが、前年度及び前期に比べて増収となった要因であると考えています。費用については、給与費で入院外来収益の按分の結果、医師給与費の配賦分が減少したほか、材料費では高額な抗がん剤やリウマチに使用する薬剤の増などで薬品費が増加しました。

泌尿器科については、体外衝撃波結石破砕などの外来での手術件数が増加し、増収の要因となりました。費用については、主に給与費で増加しており、患者増に伴う看護師給与配賦分の増や、放射線機器の撮影収入増による放射線技師給与の配賦分の増がありました。

歯科口腔外科については、入院での手術件数や患者数が増加していることに伴い、術前の検査や術後のフォロー等を実施する外来患者数もが増加しています。費用については、給与費で、医師の時間外勤務手当の増や患者増に伴う外来看護師給与の配賦分で増加しており、経費等ではCT撮影件数の増に伴う同機器にかかる減価償却費の配賦分の増などにより増加しました。

一方で、眼科については前年度に比べて外来収益が減少しており、これは不急の手術の延期等の反動で、前年度7月の収益が高かったことや医師数の減などが影響していると考えられます。

費用については、主に給与費が、医師数の減や検査件数減少に伴う臨床検査技師給与の配賦分の減により減少しています。

◆外来収益の増減が著しい診療科

※詳細は添付の診療科別収支（２）外来を参照

項目		R3年度			R2年度	
		第1四半期	第2四半期	前期増減	第2四半期	前年同期増減
内科	外来患者数 (人)	6,706	6,549	▲ 157	6,291	+ 258
	紹介患者数 (人)	665	685	+ 20	647	+ 38
	外来収益 (千円)	150,968	164,689	+ 13,721	151,173	+ 13,516
	外来費用 (千円)	138,076	148,705	+ 10,629	146,152	+ 2,553
	給与費 (千円)	74,791	74,672	▲ 119	76,667	▲ 1,995
	材料費 (千円)	51,834	61,539	+ 9,705	57,072	+ 4,468
	経費等 (千円)	11,452	12,494	+ 1,043	12,414	+ 81
	収支 (千円)	+ 12,892	+ 15,984	+ 3,092	+ 5,021	+ 10,963
泌尿器科	外来患者数 (人)	2,679	2,675	▲ 4	2,554	+ 121
	紹介患者数 (人)	150	156	+ 6	123	+ 33
	外来収益 (千円)	42,850	44,592	+ 1,743	39,226	+ 5,366
	外来費用 (千円)	34,756	36,005	+ 1,250	32,904	+ 3,101
	給与費 (千円)	18,692	18,710	+ 18	16,662	+ 2,048
	材料費 (千円)	11,050	11,672	+ 622	11,378	+ 294
	経費等 (千円)	5,014	5,623	+ 609	4,864	+ 759
	差引 (千円)	+ 8,094	+ 8,587	+ 493	+ 6,322	+ 2,265
眼科	外来患者数 (人)	1,499	1,315	▲ 184	1,527	▲ 212
	紹介患者数 (人)	37	44	+ 7	63	▲ 19
	外来収益 (千円)	13,762	12,854	▲ 908	14,527	▲ 1,673
	外来費用 (千円)	16,026	16,111	+ 85	19,927	▲ 3,816
	給与費 (千円)	13,622	13,626	+ 4	17,066	▲ 3,440
	材料費 (千円)	1,453	1,467	+ 14	1,788	▲ 321
	経費等 (千円)	951	1,017	+ 66	1,072	▲ 55
	収支 (千円)	▲ 2,264	▲ 3,257	▲ 993	▲ 5,400	+ 2,143
歯科口腔外科	外来患者数 (人)	1,108	1,278	+ 170	1,035	+ 243
	紹介患者数 (人)	178	199	+ 21	164	+ 35
	外来収益 (千円)	11,363	13,174	+ 1,811	10,304	+ 2,869
	外来費用 (千円)	13,537	15,540	+ 2,003	12,055	+ 3,486
	給与費 (千円)	11,744	13,451	+ 1,707	10,572	+ 2,879
	材料費 (千円)	341	421	+ 80	286	+ 135
	経費等 (千円)	1,452	1,668	+ 216	1,196	+ 472
	収支 (千円)	▲ 2,174	▲ 2,367	▲ 193	▲ 1,750	▲ 616

※収益、費用等の集計において端数の関係から合計や増減が合わない場合があります。

※外来費用のうち、各診療科に配賦できなかった費用（建物の減価償却費や光熱水費等）が2割以上あり、それを加味した場合、収支がマイナスになることがあります。

③課題

- ・第2四半期の外来患者数及び収益は、前年度と比べると増加しているものの、コロナ禍以前の実績を確保するに至っていません。今後も市民の受診控えなどにより外来患者数の大幅な増加は見込めないため、地道に診療所訪問を継続し、診療所からの紹介患者数を増やしていく必要があります。

6. 課題への対応と今後の方針

(1) 新型コロナ対応に向けた取組

①専用病床の確保

新型コロナ感染拡大の状況と一般病棟の効率的な運用を踏まえながら、適切な専用病床数の確保に努めます。

②新型コロナワクチン接種の実施

市の集団接種会場の一つとしての市民へのワクチン接種は、1,2回目は12月初旬で終了となりますが、3回目のワクチン接種についても市の方針に基づき、随時対応します。

③その他の継続実施

- ・新規の入院患者全員に対するPCR検査
- ・専用病床確保に伴う空床補償など、感染症対策経費にかかる国の交付金制度の活用

(2) 病床稼働率及び収益向上に向けた取組

①診療所等との連携強化に向けた取組の推進

- ・10月から診療所訪問を再開し、各科のPR及び患者の紹介を呼びかけています。
- ・円滑な退院調整を図り効率的な病棟運用を進めるために、引き続き後方連携病院を訪問し、さらなる連携強化に努めます。

②診療科タスクフォースの実施

8月から9月にかけての一般病棟病床稼働率の低下を受けて、事業管理者が各診療科の長を集め、稼働率向上に向けた対応策の提案及び至急実施を指示しました。また、11月初めに診療科毎にヒアリングを行い、現在の進捗状況を確認するとともに、さらなる取組の徹底を指示しました。今後、業績が伴わない診療科については、さらに個別ヒアリング等を通じて対応策を協議、推進します。

③各指導件数等の算定件数の向上を目指すワーキングチームの推進

ワーキングチームの活動を通じて各指導件数等の向上につなげるとともに、取組の実施状況を職員全体に周知することにより、職員全体の経営意識の醸成を図ります。

④電話再診の継続

感染が収束するまでの間、個々の患者の体調に留意しながら「電話による再診」を継続します。

⑤広報の推進

市民が安心して受診できるよう、ホームページにおいて新型コロナ対応に関する情報提供に努めるとともに、診療所に対しては当院広報誌やメーリングリストを活用して積極的に広報します。

診療科別収支（1）入院

○計上項目について
 収益… 医業収益のうち入院及び外来収益のみ ※各科の入院収益、外来収益は査定増減を含んでいないため、2頁の「収益的収支」記載する収益計と一致しない。
 費用… 医業費用のうち、各診療科に配賦できる給与費（医師、看護師、医療技術職）、材料費、経費等（報償費、委託料及び減価償却費）

○費用の各診療科配賦方法

- * 給与費
 - ・ 医師給与費… 各診療科の入院外来収益で按分（麻酔科医師の給与は一部を手術室の麻酔時間で各診療科に按分）
 - ・ その他給与費… 看護師の給与は主に延べ患者数比で按分。医療技術職は業務件数や収益比で按分
- * 材料費
 - ・ 薬品費… 薬剤料比で按分
 - ・ 診療材料費… 手術室分は主に各診療科へ直課、その他は行為別収益の材料費の収益比で按分
- * 経費等
 - ・ 報償費… 応援の医師及び医療技術職の報償費について各診療科へ直課
 - ・ 委託料… 給食について入院延患者数比で按分、機械保守委託料（一部）について各診療科へ直課、及び実績件数、収益比で按分
 - ・ 減価償却費… 各科に配賦できるものは診療科へ直課。放射線科の機器等は件数、放射線治療収益で按分

○麻酔科は、主に手術室の麻酔業務で各診療科を支援しており、支援にかかる治療行為の収益は他の診療科の収益に貢献している。
 放射線科は、診療科の支援部門でもあり、検査や放射線治療は他の診療科の収益に貢献している。

※単位未満の端数処理から合計や増減が合わない場合があります。
 ※医業費用のうち、各診療科に配賦できなかった費用（建物の減価償却費や光熱水費等）が2割以上あるため、それを加味すると多くの診療科において収支がマイナスになる。

(単位：千円)

内科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	373,453	379,594	6,141	290,297	89,297
②費用					
計	337,256	344,944	7,688	318,056	26,888
医師給与費	71,465	70,517	▲ 948	64,792	5,725
その他給与費	169,984	172,621	2,637	153,032	19,589
診療材料費	28,896	33,213	4,317	37,599	▲ 4,386
薬品費	28,921	29,337	416	29,641	▲ 304
経費等	37,990	39,256	1,265	32,992	6,263
③収支 (①-②)	36,197	34,650	▲ 1,547	▲ 27,759	62,409

(単位：千円)

外科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	121,082	102,803	▲ 18,279	126,728	▲ 23,925
②費用					
計	112,512	105,738	▲ 6,774	128,547	▲ 22,809
医師給与費	24,274	22,683	▲ 1,591	22,461	222
その他給与費	43,940	42,230	▲ 1,711	57,575	▲ 15,346
診療材料費	22,428	20,260	▲ 2,167	22,133	▲ 1,873
薬品費	8,966	9,761	795	10,625	▲ 865
経費等	12,904	10,805	▲ 2,099	15,753	▲ 4,948
③収支 (①-②)	8,570	▲ 2,935	▲ 11,505	▲ 1,819	▲ 1,116

(単位：千円)

整形外科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	27,009	32,383	5,374	41,819	▲ 9,436
②費用					
計	32,263	38,023	5,759	49,165	▲ 11,142
医師給与費	9,089	9,673	584	10,981	▲ 1,308
その他給与費	14,464	18,274	3,810	27,948	▲ 9,674
診療材料費	3,352	4,663	1,311	3,278	1,385
薬品費	1,671	1,013	▲ 658	1,749	▲ 737
経費等	3,687	4,400	713	5,209	▲ 810
③収支 (①-②)	▲ 5,255	▲ 5,640	▲ 386	▲ 7,346	1,706

(単位：千円)

小児科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	23,512	29,514	6,002	21,373	8,142
②費用					
計	24,004	28,993	4,989	23,433	5,559
医師給与費	8,998	9,515	517	7,836	1,680
その他給与費	4,234	5,181	947	4,192	989
診療材料費	486	503	17	354	149
薬品費	9,451	12,903	3,452	10,337	2,566
経費等	835	891	56	715	176
③収支 (①-②)	▲ 492	522	1,013	▲ 2,061	2,582

(単位：千円)

皮膚科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	16,465	15,785	▲ 680	19,235	▲ 3,450
②費用					
計	14,535	15,269	734	19,574	▲ 4,306
医師給与費	4,388	4,283	▲ 105	4,897	▲ 614
その他給与費	7,247	7,818	571	11,414	▲ 3,596
診療材料費	1,134	1,277	143	873	404
薬品費	499	664	165	699	▲ 34
経費等	1,265	1,226	▲ 39	1,692	▲ 465
③収支 (①-②)	1,930	516	▲ 1,414	▲ 339	855

(単位：千円)

泌尿器科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	69,613	73,029	3,416	67,057	5,972
②費用					
計	67,597	77,237	9,639	74,611	2,626
医師給与費	8,376	8,580	203	8,428	152
その他給与費	24,547	29,156	4,609	27,910	1,246
診療材料費	10,868	12,461	1,593	10,416	2,046
薬品費	3,952	5,575	1,623	6,457	▲ 882
経費等	19,853	21,464	1,611	21,400	64
③収支 (①-②)	2,016	▲ 4,208	▲ 6,223	▲ 7,554	3,346

(単位：千円)

眼科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	19,272	12,660	▲ 6,612	14,679	▲ 2,019
②費用					
計	19,603	15,103	▲ 4,500	17,532	▲ 2,428
医師給与費	4,879	4,140	▲ 739	5,789	▲ 1,649
その他給与費	4,026	3,064	▲ 963	4,987	▲ 1,924
診療材料費	7,768	5,595	▲ 2,173	4,853	742
薬品費	1,207	815	▲ 392	927	▲ 112
経費等	1,723	1,489	▲ 234	976	513
③収支 (①-②)	▲ 332	▲ 2,443	▲ 2,112	▲ 2,853	409

(単位：千円)

歯科口腔外科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	9,747	9,422	▲ 325	10,641	▲ 1,219
②費用					
計	11,950	12,831	881	13,903	▲ 1,072
医師給与費	4,685	4,179	▲ 506	4,464	▲ 285
その他給与費	4,001	5,298	1,297	5,815	▲ 517
診療材料費	1,244	1,351	107	1,117	233
薬品費	1,327	422	▲ 905	1,487	▲ 1,065
経費等	694	1,582	888	1,020	562
③収支 (①-②)	▲ 2,203	▲ 3,409	▲ 1,206	▲ 3,262	▲ 147

(単位：千円)

麻酔科	R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益 入院収益	1,376	3,358	1,982	1,091	2,267
②費用					
計	4,151	6,801	2,649	3,927	2,874
医師給与費	1,547	2,904	1,357	1,115	1,789
その他給与費	828	2,408	1,580	690	1,718
診療材料費	802	892	90	881	10
薬品費	860	256	▲ 605	1,147	▲ 891
経費等	114	341	228	94	248
③収支 (①-②)	▲ 2,775	▲ 3,443	▲ 668	▲ 2,837	▲ 606

診療科別収支（２）外来

(単位：千円)

内科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	150,968	164,689	13,721	151,173	13,516
②費用	計	138,076	148,705	10,629	146,152	2,553
	医師給与費	28,899	30,692	1,793	34,067	▲ 3,375
	その他給与費	45,891	43,979	▲ 1,912	42,599	1,380
	診療材料費	328	266	▲ 62	287	▲ 21
	薬品費	51,506	61,273	9,767	56,785	4,489
	経費等	11,452	12,494	1,043	12,414	81
③収支 (①-②)		12,892	15,984	3,092	5,021	10,963

(単位：千円)

小児科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	10,135	10,763	629	8,157	2,606
②費用	計	11,448	11,901	452	11,373	528
	医師給与費	3,932	3,593	▲ 339	2,922	671
	その他給与費	5,334	5,761	428	5,019	742
	診療材料費	174	182	8	97	85
	薬品費	81	76	▲ 5	153	▲ 77
	経費等	1,928	2,288	361	3,183	▲ 894
③収支 (①-②)		▲ 1,314	▲ 1,137	176	▲ 3,216	2,079

(単位：千円)

眼科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	13,762	12,854	▲ 908	14,527	▲ 1,673
②費用	計	16,026	16,111	85	19,927	▲ 3,816
	医師給与	3,684	4,410	726	7,027	▲ 2,617
	その他給与	9,938	9,216	▲ 721	10,039	▲ 823
	診療材料	0	0	0	0	0
	薬品	1,453	1,467	14	1,788	▲ 321
	経費等	951	1,017	66	1,072	▲ 55
③収支 (①-②)		▲ 2,264	▲ 3,257	▲ 993	▲ 5,400	2,143

(単位：千円)

外科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	63,922	65,921	1,999	65,901	20
②費用	計	64,887	67,190	2,302	64,323	2,867
	医師給与費	12,830	14,573	1,742	11,786	2,786
	その他給与費	16,534	16,693	158	17,683	▲ 990
	診療材料費	186	94	▲ 92	88	6
	薬品費	29,889	30,318	429	28,309	2,009
	経費等	5,447	5,512	65	6,457	▲ 945
③収支 (①-②)		▲ 966	▲ 1,269	▲ 303	1,577	▲ 2,846

(単位：千円)

皮膚科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	21,813	23,120	1,308	22,002	1,118
②費用	計	23,733	24,215	483	22,857	1,358
	医師給与費	6,063	6,284	221	6,019	264
	その他給与費	8,550	8,026	▲ 523	8,212	▲ 185
	診療材料費	202	273	71	400	▲ 127
	薬品費	7,942	8,644	702	7,136	1,508
	経費等	977	989	12	1,091	▲ 102
③収支 (①-②)		▲ 1,920	▲ 1,095	825	▲ 855	▲ 240

(単位：千円)

歯科口腔外科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	11,363	13,174	1,811	10,304	2,869
②費用	計	13,537	15,540	2,003	12,055	3,486
	医師給与	5,488	5,996	508	4,393	1,602
	その他給与	6,256	7,455	1,199	6,179	1,276
	診療材料	228	277	49	55	222
	薬品	113	144	31	231	▲ 87
	経費等	1,452	1,668	216	1,196	472
③収支 (①-②)		▲ 2,174	▲ 2,367	▲ 193	▲ 1,750	▲ 616

(単位：千円)

整形外科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	13,845	14,022	178	12,800	1,222
②費用	計	18,127	19,295	1,169	17,503	1,792
	医師給与費	4,682	4,217	▲ 465	3,581	636
	その他給与費	7,880	8,948	1,068	8,253	695
	診療材料費	506	429	▲ 77	229	200
	薬品費	1,187	1,228	41	720	508
	経費等	3,871	4,472	601	4,720	▲ 248
③収支 (①-②)		▲ 4,282	▲ 5,273	▲ 991	▲ 4,703	▲ 570

(単位：千円)

泌尿器科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	42,850	44,592	1,743	39,226	5,366
②費用	計	34,756	36,005	1,250	32,904	3,101
	医師給与費	5,191	5,233	42	4,944	289
	その他給与費	13,501	13,477	▲ 24	11,718	1,759
	診療材料費	228	168	▲ 59	162	6
	薬品費	10,823	11,504	681	11,216	288
	経費等	5,014	5,623	609	4,864	759
③収支 (①-②)		8,094	8,587	493	6,322	2,265

(単位：千円)

麻酔科		R3年第1四半期	R3年第2四半期	前期増減	R2年第2四半期	前年同期増減
①収益	外来収益	12,414	14,570	2,157	11,866	2,704
②費用	計	24,235	23,081	▲ 1,154	21,861	1,219
	医師給与	14,567	12,654	▲ 1,913	12,687	▲ 33
	その他給与	6,682	7,188	505	6,803	384
	診療材料	0	4	4	7	▲ 4
	薬品	1,834	1,965	131	879	1,085
	経費等	1,152	1,271	119	1,484	▲ 213
③収支 (①-②)		▲ 11,821	▲ 8,510	3,311	▲ 9,995	1,485